

河村さんの俳画

田 部 重 治

河村さんの本職は彫刻家であるが、私の最も好きなのは、氏の俳画である。それに於て氏の個性がよく現われ、氏の面目が躍然としていゝと思つてゐる。私が氏と親しくあひ始めたのは昭和二十年の五月信州の追分に疎開してからで、私は氏の宅へ殆ど隔日の夜、十時過ぎまでお邪魔した。その間に私は氏の性格の面白いこと、飄逸なように見えて、万事につけ鋭い物の見方があり、自然に對してその特質を捉える、並々ならぬもののあることを知り、それが氏の俳画をして獲得のものたらしめてゐる所以だろつと思つた。

俳画と言ふ一つの芸術は、文学に於ける隨筆のようなものではないかと私は前から思つてゐる。例えば「枕草紙」や「徒然草」の如き、作者の性格がよく現われてゐるところに作品の意義がある。それと同じように、俳画も作者の個性が躍然としてゐるところに意義がある。淺間高原の風物が氏の筆により写生され、特に氏の背の百態の描写に至つては、神に入つてゐる感があり、氏の魂が写真するものに移入してゐることを感ぜしめると思ふ。氏はまだ多くの未来をもちながら昨年、忽然としてこの世を去られたことは何としても惜しい人を失つたと思つてゐる。

(アイウエオ順)

赤松保羅	岡本文弥	田中蔵六
淺井義典	荻原井泉水	田部重治
雨田光平	奥田政徳	天童雅枝
荒川二郎	小田切治郎	戸川行男
石井鶴三	小野田高節	友利茂之
伊藤銃一	川上親利	野口義恵
今西武夫	河村三郎	福田庸雄
岩城四郎	斉藤昌三	三坂耿一郎
一龍斎貞丈	佐藤伊吉	本明寛
浦上五三郎	佐藤実津	料治熊太
漆山正二	神保俊子	